

膣内フローラ検査

マイクロバイオーム解析士®による
個別アドバイスパッケージ

VAGINA



女性が健康的に輝いていられるためには、膣内環境はとても大切です。

女性は10代からの月経から始まり、妊娠、出産、そして閉経までと、膣内の環境は大きく変化していきます。日々のストレスや加齢により膣内フローラが乱れると膣や子宮内に悪玉菌が増えてしまいます。

そうならないために膣内に必要なのがラクトバチルスという乳酸菌です。

ラクトバチルスから産生される乳酸が膣内やデリケートゾーンを酸性にして外部からの雑菌から守ってくれます。ご自身の膣タイプを知り、いつの年代でも輝いて気持ちよく過ごせるように、膣ケアを始めましょう。

お名前： 福田 綾香 様

検査日 :2024/05/10

検体番号：REG-V-0085

MB解析担当：リジェナー

あなたのCSTは 3型

1 型	L. crispatus	4 型	ABC(Cは5つに分類)
2 型	L.gasseri	5 型	L. jensenii
3 型	L. iners	6 型	その他

CST とはCommunity State Type の略で腔内の細菌の割合でタイプ別に分類しています。
 CST 1、2、3、および 5 はすべて、単一のLactobacillus種によって支配されており、CST 4 の方は細菌性
 膣炎（Bacterial vaginosis）、好気性膣炎、尿路感染症、不妊、早産などのリスクが高い状態です。
 CST 4 はさらに3 つの小さなサブタイプに細分され、4-C はさらに 5 つの追加のサブタイプに分類されてい
 ます。その他のラクトバチルス種の優勢菌種によりCST5とCST6に分類されます。

ラクトバチルスの割合 90%以上が理想		BVリスク細菌の割合 0%が理想	
63.16	%	0.00	%

乳酸菌が減ると細菌性膣炎になりやすくなります。
 乳酸菌が減少する原因はいくつかあります。
 抗生剤、性交渉、膣の洗浄、ストレス、女性ホルモンの変動（ピル、
 生理）などになります。
 細菌性膣炎に原因菌があるというよりも、何らかの原因で腔内の細菌
 バランスが崩れた時に発症します。
 細菌性膣炎は、以下の性感染症と症状がよく似ています。
 ・淋菌 ・クラミジア ・トリコモナス ・カンジダ

早産リスク細菌	0.00	%
不妊リスク細菌	0.00	%

あなたへのアドバイス

あなたのCSTは 3型に分類されます。3型はLactobacillus inersが優勢です。pH は通常は 4.5 以下ですが、それでも CST 1（クリスパタス）よりわずかにpH 値が高くなります。強力な自浄作用のあるクリスパタスから弱まっていくときにイナーズに移行していきと言われています。イナーズは BV リスク菌と共存できる細菌です。今回、検体採取が困難なほど乾燥してたのではないかと推測します。アクネ菌が検出されていますので注意が必要です。デリケートゾーンの潤いケアを怠り、洗いっぱなしにすると、雑菌が増えかゆみの原因になります。日々のケアとしては、膣を洗いすぎず、腔内環境を改善のためラクトバチルスを味方につける必要があります。エストロゲン入りのラクトバチルスのソープやインナージェルを使うことで腔内が潤うだけでなく自浄作用を助けることができます。免疫力の低下、生理の前後や睡眠不足、疲労やストレスによってラクトバチルスが減少すると、リスク細菌が増殖が増殖するきっかけになります。細菌増殖を予防するために腸内環境を整えストレスを溜めないようにしましょう。